

FOR THE LOVE OF
RAKUGO

A DOCUMENTARY SHORT



MAMJF.ORG PRESENTS
A FORERUNNERFILMS PRODUCTION
FEATURING CYRIL COPPINI

クレジット:

プロデューサー／監督: Justin Ambrosino

エグゼクティブプロデューサー: Masu H. Masuyama

撮影監督: Yannis Faidherbe

オリジナルミュージック: Romeo Scaccia

出演: Cyril Coppini, Katherina Poelmans, Simeon Poelmans, Joeri Gydé, Rani Gydé, Rafaël Van Meeuwen

編集: Justin Ambrosino

サウンドプロデューサー: Yannis Faidherbe

カメラオペレーター: Yannis Faidherbe & Justin Ambrosino

カラーグレーディング: Yannis Faidherbe

サウンドミックス: Romeo Scaccia (at Studio CPM: Academy of Music, Cagliari)

撮影場所: Hasselt (BE) : Japanese Garden & De Nieuwe Zaal

字幕: Tsukasa Kondo (JP) & Cyril Coppini (FR)

お礼: Carl de Coster, Chisato Schobben, Ekaterina Laurent, Ostron

フォーマット: ドキュメンタリー - 26分 - B&W & カラー

撮影日程: 2025年6月15日(日)

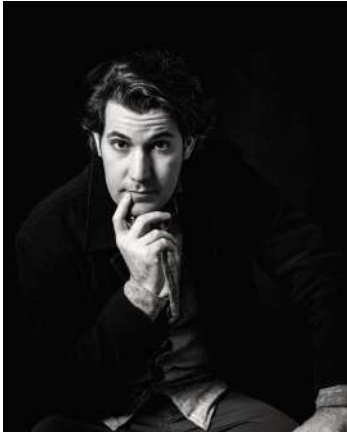
言語: 英語

字幕: 日本語・フランス語

シノプシス: *For the love of Rakugo*はフランス生まれのシリル・コピーニがフラマン語圏ベルギーで日本の伝統芸である落語を英語で披露するドキュメンタリーです。静かに一人で準備を進める様子から高座に上がるまで密着。シリルが熱演する演目は新作ですが、高座のスタイリッシュな映像に加え、地元のお客様の話を挟む。落語を知らない方もいれば、その神秘的な魅力に惹かれた方もいます。お客様が落語への好奇心や万国共通の笑いについて語り合い、シリルがお笑い、文化交流、そして落語の魅力について語ります。



トレーラー: <https://youtu.be/93uatmXnGUI>



ジャスティン・アンブロシーノ(プロデューサー／監督)のプロフィール
映画・テレビの脚本家、監督、編集者。2024年にRTBF Auvio制作のテレビシリーズ『BAN』のファーストシーズン全編を監督し、現在RTBFと共同製作中のテレビシリーズ『MEGA-PALS』をプロデュース。また、Need Productions制作の『MEXICO 86』(2024年、ベレニス・ベジョ主演、セサル・ディアス監督)とVolos Films制作の『DEATH HAS NO MASTER』(2026年、アーシア・アルジェント主演、ホルヘ・ティエレン・アルマン監督)のエグゼクティブ・プロデューサーも担当。アメリカ映画協会(AFI)卒業のジャスティンは、ヒッチコック・フェロー、ニューヨーク芸術財団フェロー、京都フィルムメーカーラボフェロー、S-AIR札幌アーティスト・イン・レジデンス、BiFanファンタスティック・フィルム・スクールの参加者でもあります。脚本家兼監督としての映画は、世界中の映画祭で上映。

その中には、ロサンゼルス国際短編映画祭でグランプリを受賞した後、アカデミー賞の候補となった尾崎英二郎主演『八人目の侍』があり、黒澤明生誕100年ツアーでも上映されました。

シリル・コピーニのプロフィール



南仏ニース生まれ育ち。高校時代に日本語の勉強をはじめ、90年代頭にパリのフランス国立東洋言語文化研究所にて日本語・日本文学を専攻。95年～96年は長野県松本市信州大学へ留学し、97年より日本在住。97年～2021年は在日フランス大使館の文化センター「アンスティチュ・フランセ日本」(福岡と東京の施設)に所属し、コンサート・舞台・コンテポラリーダンスなどの企画を担当。2011年より「尻流複写ニ」という芸名で「フランス人落語パフォーマー」としてデビュー。フランスをはじめ、フランス語圏の諸国でフランス語落語を積極的に広げようとしませんが、日本国内やタイ、ニュージーランド、トルコにも落語会・講演会・ワークショップを開催。2022年より東京の「英語落語協会」の正会員となる。2023年に130年歴史を持つパリの伝説的な会場「オランピア劇場」(NYでいう「カーネギーホール」)にて落語の初口演を行う。2025年に大阪関西万博フランス・パビリオンにも落語を披露。一方、翻訳家としても活躍中。日本の漫画(「昭和元禄落語心中」、「名探偵コナン」…)やビデオゲーム(「ダンガンロンパV3」、「Dark Souls RPG」…)のフランス語版を担当。また、雑誌やカルチャー・マガジンにて連載も担当(タワレコのフリーペーパー「Intoxicate」、白水社の「ふらんす」、東海教育研究所の「かもめの本棚online」…)日本のテレビ(NHKワールド)やFMラジオにもレギュラー出演中。オフィシャルHP: www.cyco-o.com

2011年より主な落語実績(日本語、フランス語、英語) パリ「オランピア劇場」、大阪関西万博2025、オタクソン・フェスティバル(モントリオール)、「秋祭り」(マルセイユ/ジュネーブ)、ハッセルト日本庭園、テンビュー・フェスティバル(ニューカレドニア) &ヌメア国際ブックフェア、オークランド日本祭り(ニュージーランド)、ギメ東洋美術館(パリ)、ニースアジア美術館、浅草「東洋館」、ジャパン・トウール・フェスティバル、アヴィニオン国際演劇祭、アングレーム漫画国際祭、ジュネーブ民族学博物館、東京「神楽坂まち舞台」、イスタンブール大学、浅草公会堂、チェンマイ日本人会、東京国際フォーラム、ローザンヌ「リド・コメディ・クラブ」、ローザンヌ「ジャパン・インパクト」etc.